



北広島の歩みを伝える歌シリーズ①

広島村開村記念日唱歌

北広島歩みを伝えるさまざまな歌があります。「広島村開村記念日唱歌」もその一つです。

明治17年5月23日、広島県からの移住者18戸が、北広島に開拓の礎を入れました。広島村の始まりとされるこの日が開村記念日と定められました。唱歌は後年、記念日を祝うために作られました。

唱歌はいつ、誰が作ったのでしょうか。開拓記念公園内の歌碑には、明治41年に広島開村碑を設置したときに、作られたと記されています。

作詞を手掛けた石森和男さんは札幌に住んでいた国文学者で、児童文学者・石森延男さんの父でもあります。

歌詞は6番まであります。2番には「なれし古郷離れ来て 深き木立をきりひらき 茂る叢わけ入りて 移住



祝 北広島市市制施行20周年記念式典

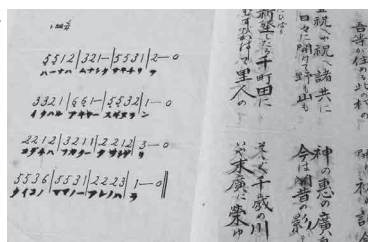
をせしは十八戸」と書かれています。北海道へ渡り、開墾に力を注いで北広島礎を築いた先人に思いを馳せ、記念日を祝おうという内容です。

昭和20年頃までは毎年、開村記念日や学校行事などの際、主に小学校の児童たちが歌ったそうです。

時を経て平成18年の市制施行10周年記念式典のときに、小学生が合唱で再現しました。28年9月、芸術文化ホールで行われた市制施行20周年記念式典では、東部・西部・緑陽中学校の合唱部が、札幌日大高校吹奏楽部の演奏に合わせ唱歌を披露。さわやかな歌声は式典に華を添えました。

先人が北広島を切り開いた時代を思い起こさせる唱歌は、これからも歌い継がれることでしょう。

*「広島町の歩み」より



大正元年に清書された広島村開村記念日唱歌（エコミュージアムセンター知新の駅所蔵）



開拓記念公園内の歌碑

まめ記者

北の台小をさらに
良い学校に



北の台小学校6年
鈴木暁介さん
(児童会長)

北の台小学校の良いところは、児童が明るく元気にあいさつができることです。書記局では、その良さをさらに高めようと、あいさつ運動の強化や全校のみんなの仲が良くなるような企画を考えています。あいさつ運動は、週に2回、担当学級が玄関前に並んで行っています。また、レインボーT・K(楽しい・北の台)祭という、学級ごとにお店を出して1年生から6年生までが、仲良く交流できる企画を行いました。

また、北の台小学校では、東部スタンダードという「あいさつ・準備・思いやり」という3つの約束ごとを頭に入れながら、日々学校生活を送っています。今後も、もっとこの学校を良くするために、進んで活動していきたいと思っています。



あいさつ運動